

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

分担研究報告書

本邦における小児・AYA世代がん患者の生殖機能に関するがん・生殖医療連携体制の拡充と機能維持に向けた研究

研究分担者

古井 辰郎 岐阜大学大学院医学研究科産科婦人科学 准教授
高井 泰 埼玉医科大学総合医療センター産婦人科 教授

研究要旨

日本がん・生殖医療学会では、2011年以來各地域のがん診療施設と生殖医療施設による医療連携である「地域がん・生殖医療連携の構築」を提唱し、本邦で初めてがん・生殖医療連携が構築された岐阜県のがん・生殖医療連携（GPOFs）をモデルとして、岐阜モデルの全国展開を進めてきた。2019年10月現在、がん・生殖医療連携は全国22府県に構築されているが（日本がん・生殖医療学会しらべ）、がん・生殖医療の連携不足による地域格差や施設内格差が、本領域における解決すべき重要課題の1つとしてあげられる。そこで、本研究班の研究①「本邦における小児・AYA世代がん患者の生殖機能に関するがん・生殖医療連携体制の拡充と機能維持に向けた研究」では、2019年度中に全国の未整備地域（25都道府県）のがん・生殖医療に関する実態とニーズを把握し、さらに地域連携体制の拡充に向けて「地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会」を開催した。その結果、未整備地域における課題の抽出とネットワーク立ち上げの端緒を作ることができた。さらに、がん・生殖医療の啓発と地域格差の解消を志向して、web site「がん治療と妊娠-地域連携」の開設を進めた

2019年度は以下の3つの研究を遂行した。【研究1】地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会、【研究2】神奈川県がん・生殖医療ネットワーク（KanaOF-Net）設立、【研究3】がん治療と妊娠-地域連携に関するweb site開設。

研究分担者

高江正道（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）

研究協力者

加藤雅志（国立がん研究センターがん対策情報センター）

木村文則（滋賀医科大学産科学婦人科学）

西山博之（筑波大学医学医療系腎泌尿器外科）

根来宏光（筑波大学医学医療系腎泌尿器外科）

竹中基記（岐阜大学医学部附属病院産科婦人科）

原鐵晃（県立広島病院生殖医療科）

今井伸（聖隷浜松病院リプロダクションセンター）
堀江昭史（京都大学医学部婦人科学産科学教室）
宮地充（京都府立大学小児科学教室）
重松幸佑（埼玉医科大学総合医療センター産婦人科）
鈴木達也（自治医科大学産科婦人科）
金西賢治（香川大学医学部 母子科学講座周産期学婦人科学）
久保恒明（青森県立中央病院血液内科）
後藤真紀（名古屋大学医学部産婦人科）
金森平和（神奈川県立がんセンター：副院長）
宮城悦子（横浜市立大学医学部産婦人科）
石寺由美（横浜市立大学医学部産婦人科）
矢尾正祐（横浜市立大学医学部泌尿器科）
湯村寧（横浜市立大学附属市民総合医療センター生殖医療センター）
村瀬真理子（横浜市立大学附属市民総合医療センター生殖医療センター）
菊地栄次（聖マリアンナ医科大学腎泌尿器科学）
川原泰（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）

A. 研究目的

本研究の目的は、がん・生殖医療の連携不足による地域格差や施設内格差解消を目指し、小児・AYA 世代がん患者における生殖機能温存に関する医療連携体制の拡充とその機能維持を志向する研究を展開することである。そこで、以下の3つの研究を進めた；【研究1】地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会、【研究2】神奈川県がん・生殖医療ネットワーク（KanaOF-Net）設立、【研究3】がん治療と妊娠-地域連携に関する web site 開設。

B. 研究方法

【研究1】地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会：日本がん・生殖医療学会による地域医療連携に関する情報から、
（1）地域でがん・生殖医療の連携を率先してまとめる組織の実態が無い地域、
（2）組織は存在するが、小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の提供と医療連携の実態が明らかでない地域どちらか

に合う地域を、「がん・生殖医療連携未整備地域（以下、未整備地域）」と定義した。25箇所未整備地域は以下の、都道府県となる；北海道、青森、岩手、秋田、山形、福島、東京、神奈川、千葉、新潟、富山、石川、福井、山梨、愛知、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、香川、高知、宮崎、佐賀、鹿児島）。

そこで、がん・生殖医療連携体制の設立準備の構築を呼びかけ、組織の枠組みを完成させる事を目的とした会議である「地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会」（以後、「考える会」とする。）を2020年1月24日（金）と2月5日（水）の2回に分けて東京で開催した。なお、がん対策推進基本計画（第3期）の「小児、AYA 世代がん患者に対する生殖機能に関する情報提供および意思決定支援体制構築のために、各都道府県でがん・生殖医療連携の準備室の立ち上げと、今後のロードマップの話し合いが本会議の議題となる。参加者は、①がん拠点病院においてがん診療の指

導的立場の先生または実務担当者など、②産婦人科診療の指導的立場の医師（日本産科婦人科学会医学的適応による未受精卵子など凍結登録施設あるいはART登録施設）または実務担当者など、③行政のがん対策関連の担当者とした。この「考える会」では全国のネットワーク未整備の24都道府県より参加した上記①～③の参加者によるワークショップを実施し、新規NW構築に向けた課題の抽出と今後の方策を議論した。

なお、「考える会」開催に向けて、2019年10月25日（金）（日本癌治療学会学術集會会期中博多にて：参加者 古井辰郎、高井泰、鈴木直）と2019年12月25日（水）

（岐阜大学サテライトキャンパス多目的講義室（中）にて：参加者 古井辰郎、高井泰、鈴木直、竹中基紀、川原泰）による準備会議を開催した。

一方、既存地域連携の活動性に関する実態調査を計画立案した。

【研究2】神奈川県がん・生殖医療ネットワーク（KanaOF-Net）設立：研究代表者が所属する施設がある神奈川県では、これまで日本産科婦人科学会が認める医学的適応の保存施設として聖マリアンナ医科大学産婦人科学講座と横浜市立大学附属市民総合医療センター生殖医療センターが中心となり県内のみならず県外からの小児・AYA世代がん患者を受け入れ、がん・生殖医療を提供してきた。神奈川県では、2010年以来にがん・生殖医療連携が自然発生的構築されてきたが、定義上（2）組織は存在するが、小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療の提供と医療連携の実態が明らかでない地域に該当する地域となる。そこで、未整備地域である神奈川県を整備地域としてがん・生殖医療連携構築のモデルとすべく、2019年度に神奈川県にがん・生殖医療連携の構築を進めた。2020年1月8日

（水）に神奈川県がん・疾病対策課ならびに神奈川県がん診療連携協議会の協力のもと、神奈川県がん・生殖医療ネットワーク構築キックオフ準備会議を聖マリアンナ医科大学にて開催した。（資料1-1）そのさい、広島県のがん・生殖医療連携設立の現状と課題に関する情報を、原鐵晃先生

（県立広島病院生殖医療科に提供して頂いた。そして、神奈川県内におけるがん治療と生殖医療に従事するヘルスケアプロバイダーが、互いに連携して小児・AYA世代のがん患者やその家族、またがんサバイバーに対して、妊孕性温存や妊娠・出産に関する正しい情報提供し、妊孕性温存療法（精子・卵子・胚・卵巣温存など）をスムーズに実施するためのネットワークを構築し、知識や情報の交換および医療の進歩に寄与することを目的として、2020年1月31日（金）にTKP横浜駅西口カンファレンスセンターホールAにて、「神奈川県がん・生殖医療ネットワーク（KanaOF-Net）設立講演会」の開催を決定した。

【研究3】がん治療と妊娠-地域連携に関するweb site開設：web site「がん治療と妊娠-地域連携」の作成を株式会社 ザッツ・オールライトに外注した。2019年度内に、がん・生殖医療連携が先進的に進められている6府県（岐阜、埼玉、京都、滋賀、広島、三重）と未整備地域1県（神奈川）の情報から掲載することとした。

C. 研究結果

【研究1】地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会：研究分担者間での小班会議（地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会）を行い、2020年1月24日（金）と2月5日（水）の2回に分けて、全国の24未整備地域の代表者74名（医師50名、行政24名）を招集し「地域がん・生殖

医療ネットワーク構築を考える会」を開催し、個々の地域の課題を抽出し実情にあった連携形態を議論した。

これら 24 地域の中で、ネットワークが組織化されていた地域が 4 地域あった。現在の生殖医療に関する相談・支援体制としては、施設間や医師個人間での連携がそれぞれ 13 地域、14 地域と最多であった(図 1)。ネットワーク運営の主体として期待される組織としては、都道府県行政、都道府県がん診療連携拠点病院協議会等、都道府県がん診療連携拠点病院の産婦人科を挙げた回答が、それぞれ 10、10、9 地域と多数を占めた(図 2)。ネットワーク新規構築や運営における阻害因子としては、マンパワー不足、予算不足、ノウハウがない、主導する組織や関係者がいないといった回答が、それぞれ 21 地域、19 地域、16 地域、12 地域であった(図 3)。

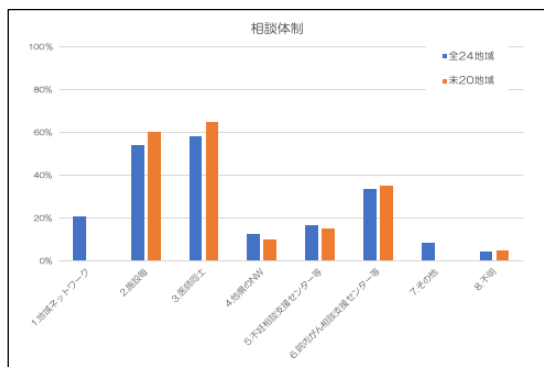


図 1：未整備地域における相談体制の各割合を示した。全 24 地域中の割合を青帯、ネットワークキックオフ済みの地域を除いた 20 地域中の割合を赤帯にて示した(重複回答あり)。

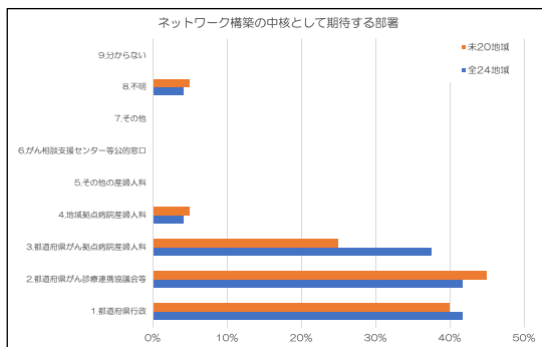
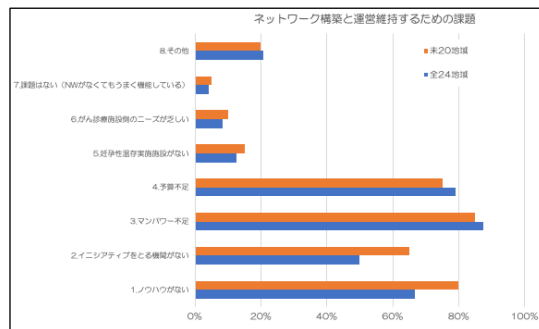


図 2：未整備地域におけるネットワーク構築の中核となるべき部署の各割合を示した。全 24 地域中の割合を青帯、ネットワークキックオフ済みの地域を除いた 20 地域中の割合を赤帯にて示した(重複回答あり)。



中の割合を赤帯にて示した(重複回答あり)。

図 3：未整備地域における現状の課題の各割合を示した。全 24 地域中の割合を青帯、ネットワークキックオフ済みの地域を除いた 20 地域中の割合を赤帯にて示した(重複回答あり)。

一方、既存地域連携の活動性に関する実態調査に関しては、日本がん・生殖医療学会の Oncofertility Consortium Japan(OCjpn)の協力を得て、地域連携体制のモニタリングと資材や情報の共有体制構築の準備を開始した。(資料 1-2、資料 1-3)

【研究 2】神奈川県がん・生殖医療ネットワーク(KanaOF-Net)設立：2020年1月31日(金)に、神奈川県がん・生殖医療ネットワーク(KanaOF-Net)設立講演会をTKP横浜駅西口カンファレンスセンター ホールAにて開催した。講演会では、滋賀県(木村文則先生 滋賀医科大学医学部)、京都府(堀江昭史先生 京都大学医学部)、栃木県(鈴木達也先生 自治医科大学)におけるがん・生殖医療連携の現状に関して報告して頂いた。事前に、神奈川県内のがん診療連携拠点病院及び神奈川県がん診療連携指定病院(30施設)に参加を促し、27施設から47人が参加した。(資料 1-4)

【研究 3】がん治療と妊娠-地域連携に関するweb site開設：日本がん・生殖医療学会web site内に「がん治療と妊娠-地域連携」のweb siteを開設した。2019年度は、

がん・生殖医療連携が先進的に進められている6府県（岐阜、埼玉、京都、滋賀、広島、三重）と未整備地域1県（神奈川）の情報を掲載した。なお、本web siteには研究①「本邦における小児・AYA世代がん患者の生殖機能に関するがん・生殖医療連携体制の拡充と機能維持に向けた研究」の研究成果を、「研究の取り組み」として掲載している。（資料1-5）

D. 考察

がん・生殖医療連携未構築地域における小児・AYA世代がん患者に対する生殖機能温存に関する相談支援体制の現状として、医師個人間や特定の施設のみでの連携に留まっている現状が明らかになった。このことは、施設や診療科によって患者が受けられる支援が量的、質的に異なる可能性が明らかとなった。すなわち、依然本領域における地域格差や施設間格差の存在が懸念される。がん・生殖医療連携構築に際して、都道府県のがん診療連携会議や拠点病院を核とするネットワーク構築体制への期待が強く、ネットワークの運営・維持に対する各自治体からの協力体制の必要性が浮き彫りになった。未整備地域構築のモデルとなったKanaOF-Net構築に際しては、県のがん・疾病対策課と県がん診療連携協議会から全面的に協力が得られたことが、県内のがん治療医への啓発とがん・生殖医療の均てん化に結びつく可能性が示唆された。また、今回の会議やワークショップを通して、25箇所の未整備地域でにおけるがん・生殖医療連携構築の端緒に結びつけることができたと考えている。さらに、OCjpnを活用した人材、ノウハウ、資材等の共有体制によって、地域での医療連携構築阻害要因を減らす可能性が期待できる。さらに阻害要因の中で経済的な問題も多く指摘されたが、こ

れについてはネットワークの持続可能性や機能維持を考えると公的な予算の後ろ盾が必要と考えられた。

E. 結論

小児・AYA世代がん患者の生殖機能温存に関する支援体制の全国での均てん化とそれを持続可能な体制とするために、(1) OCjpnを核とした地域連携同士の相互協力およびネットワーク機能の指標を用いたモニタリングシステムの構築、(2) 地域連携の維持・運営の公的位置付け。また、2020年度以降以降、先進地域の情報も参考にして、既存地域連携の活動性に関する実態調査研究によって、より効果的な地域連携モニタリングシステムや情報共有体制の構築が必要と考えられる。また、今回の会議開催により各地域の窓口が明確になったことと、会議での議論と情報共有の結果、現在未整備の地域で地域連携体制キックオフの端緒につなげることができた。今後、全国の小児・AYA世代がん患者に対する各地域のがん・生殖医療連携に関する医療情報の提供をさらに促進させるために、「地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会」を整備地域を含む47都道府県に展開させ、web site「がん治療と妊娠-地域連携」の充実に努めていく。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表

【古井辰郎】

- 1) Furui T, Takai Y, Kimura F, Kitajima M, Nakatsuka M, Morishige K-I, Higuchi A, Shimizu C, Ozawa M, Ohara A, Tatara R, Nakamura T, Horibe K,

- Suzuki N: Fertility preservation in adolescent and young adult cancer patients: From a part of a national survey on oncofertility in Japan. *Reprod Med Biol.* 18(1):97-104. 2019
- 2) Furui T, Takai Y, Kimura F, Kitajima M, Nakatsuka M, Morishige K-I, Higuchi A, Shimizu C, Ozawa M, Ohara A, Tatara R, Nakamura T, Horibe K, Suzuki N: Problems of reproductive function in survivors of childhood and adolescent and young adult-onset cancer revealed in a part of a national survey of Japan. *Reprod Med Biol*, 18(1): 105-110. 2019
 - 3) Kawaguchi M, Kato H, Suzui N, Furui T, Morishige KI, Goshima S, Matsuo M: MR imaging findings differentiating uterine submucosal polypoid adenomyomas from endometrial polyps. *Br J Radiol.* 92(1095): 20180430. doi: 10.1259/bjr.20180430. 2019
 - 4) Kato H, Esaki K, Yamaguchi T, Tanaka H, Kajita K, Furui T, Morishige KI, Goshima S, Matsuo M: Predicting Early Response to Chemoradiotherapy for Uterine Cervical Cancer Using Intravoxel Incoherent Motion MR Imaging. *Magn Reson Med Sci.* 15;18(4): 293-298. 2019
 - 5) Ando T, Kato H, Kawaguchi M, Furui T, Morishige K-I, Hyodo F, Matsuo M: MR findings for differentiating decidualized endometriomas from seromucinous borderline tumors of the ovary. *Abdominal Radiology.* doi:10.1007/s00261-020-02412-x. in press. 2020
 - 6) 寺澤恵子、古井辰郎、山本志緒理、菊野享子、竹中基記、森重健一郎：患者の妊孕性温存における黄体期ランダムスタートの有用性の検討. *日本がん・生殖医療学会誌* 2(1) : 54-58, 2019
- 【高井泰】
- 1) Uemura N, Takai Y, Mikami Y, Ogasawara M, Saitoh M, Baba K, Tamaru J, Hara M, Seki H: Molecular cytogenetic analysis of a hydatidiform mole with coexistent fetus: a case report. *J Med Case Rep* 2019; 13 (1): 256.
 - 2) Sakai A, Matsunaga S, Nakamura E, Samejima K, Ono Y, Yamamoto K, Takai Y, Maeda H, Seki H: Optimal preoperative autologous blood storage volume required in surgeries for placenta previa and low-lying placentas. *J Obstet Gynaecol Res* 2019; 45 (9): 1843-1850.
 - 3) Nakamura E, Mikami Y, Era S, Ono Y, Matsunaga S, Nagai T, Takai Y, Saitoh M, Baba K, Seki H: Differences in the prognosis of preeclampsia according to the initial symptoms: A single-center retrospective report. *Pregnancy Hypertens* 2019; 16: 126-130.
 - 4) Mikami Y, Takai Y, Obata-Yasuoka M, Kumagai R, Yagyu H, Shigematsu K, Huang H, Uemura N, Shinsaka M, Saitoh M, Baba K, Seki H: Diagnosis of female 17alpha-hydroxylase deficiency after gonadectomy: a case report. *J Med Case Rep* 2019; 13 (1): 235.
 - 5) Matsunaga S, Takai Y, Seki H: Fibrinogen for the management of critica

- l obstetric hemorrhage. J Obstet Gynaecol Res 2019; 45 (1): 13-21.
- 6) MacDonald JA, Takai Y, Ishihara O, Seki H, Woods DC, Tilly JL: Extracellular matrix signaling activates differentiation of adult ovary-derived oogonial stem cells in a species-specific manner. Fertil Steril 2019; 111 (4): 794-805.
- 7) Kawaguchi R, Matsumoto K, Akira S, Ishitani K, Iwasaku K, Ueda Y, Okagaki R, Okano H, Oki T, Koga K, Kido M, Kurabayashi T, Kuribayashi Y, Sato Y, Shiina K, Takai Y, Tanimura S, Chaki O, Terauchi M, Todo Y, Noguchi Y, Nose-Ogura S, Baba T, Hirasawa A, Fujii T, Fujii T, Maruyama T, Miyagi E, Yanagida K, Yoshino O, Iwashita M, Maeda T, Minegishi T, Kobayashi H: Guidelines for office gynecology in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG) and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists (JAOG) 2017 edition. J Obstet Gynaecol Res 2019; 45 (4): 766-786.
- 8) Huang H, Mikami Y, Shigematsu K, Uemura N, Shinsaka M, Iwatani A, Miyake F, Kabe K, Takai Y, Saitoh M, Baba K, Seki H: Kagami-Ogata syndrome in a fetus presenting with polyhydramnios, malformations, and preterm delivery: a case report. J Med Case Rep 2019; 13 (1): 340.
- 9) Furui T, Takai Y, Kimura F, Kitajima M, Nakatsuka M, Morishige KI, Higuchi A, Shimizu C, Ozawa M, Ohara A, Tatara R, Nakamura T, Horibe K, Suzuki N: Fertility preservation in adolescent and young adult cancer patients: From a part of a national survey on oncofertility in Japan. Reprod Med Biol 2019; 18 (1): 97-104.
- 10) Furui T, Takai Y, Kimura F, Kitajima M, Nakatsuka M, Morishige KI, Higuchi A, Shimizu C, Ozawa M, Ohara A, Tatara R, Nakamura T, Horibe K, Suzuki N: Problems of reproductive function in survivors of childhood- and adolescent and young adult-onset cancer revealed in a part of a national survey of Japan. Reprod Med Biol 2019; 18 (1): 105-110.
- 11) 高井泰: 【新時代に入ったがん・生殖医療】世界のがん・生殖医療の現状と今後の展望 世界のがん・生殖医療とわが国の補助金制度・登録制度の取り組み. 産科と婦人科 2019; 86 (4): 411-416.
- 12) 高井泰: AYA がん患者の生殖機能温存 Up-to-date がん・生殖医療の総論・課題. 日本産科婦人科学会雑誌 2019; 71 (11): 2406-2411.
- 13) 高井泰: ①月経異常 d. 早発卵巣不全. 産科婦人科疾患 最新の治療 2019-2021, 吉川史隆, 平松祐司, 大須賀穰編. 東京, 南江堂, 157-159, 2019
- 14) 高井泰: Q2-2 疾患別に適した排卵誘発法は?. がん患者の妊孕性温存のための診療マニュアル, 生殖機能温存がん治療法の革新的発展にむけた総合的プラットフォームの形成研究班編. 東京, 金原出版, 6-8, 2019
- 15) 高井泰: Q4-2 がんを取り扱う診療施設と同一施設内のがん・生殖医療を行っていないばあいの対応は?. がん患者

- の妊孕性温存のための診療マニュアル, 生殖機能温存がん治療法の革新的発展にむけた総合的プラットフォームの形成研究班編. 東京, 金原出版, 77-78, 2019
- 16) 高井泰: 遺伝性乳癌卵巣癌 (HBOC) に対する新たな産婦人科診療 HBOC 患者に対するがん・生殖医療. 母性衛生 2019; 59 (4): 学 3-学 12.
 - 17) 高井泰: 【ミトコンドリアと疾患・老化 細胞内代謝プラントとしての役割を知り、ミトコンドリアを標的とした創薬に挑む】(第 2 章)ミトコンドリアと疾患・老化 老化関連疾患(がん・糖尿病・生殖) 卵子老化とミトコンドリア. 実験医学 2019; 37 (12): 1993-1998.
 - 18) 鈴木直, 高井泰, 野澤美江子, 渡邊知映. ヘルスケアプロバイダーのためのがん・生殖医療. 大阪: メディカ出版; 2019.
 - 19) 重松幸佑, 高井泰: 思春期 (AYA) 血液がん×未受精卵子凍結保存. ヘルスケアプロバイダーのためのがん・生殖医療, 鈴木直, 高井泰, 野澤美江子, 渡邊知映編. 大阪, メディカ出版, 176-181, 2019
2. 学会発表
- 【古井辰郎】
- 1) 古井辰郎: がん・生殖医療におけるホルモン測定の実際 (意思決定支援から配偶子凍結まで). 第 37 回日本受精着床学会総会・学術集会(東京)2019. 8. 2
 - 2) 伊藤由夏: 岐阜大学病院における医療連携について—心理士の立場から— Oncofertility Consortium Japan Meeting. 第 9 回日本がん・生殖医療学会学術集会(岐阜)2019. 2. 9-10
 - 3) 志賀友美: 周産期から見たがん・生殖医療. 周産期委員会企画シンポジウム「がんサバイバーの妊娠・出産・育児」第 9 回日本がん・生殖医療学会学術集会(岐阜)2019. 2. 9-10
 - 4) 竹中基記: 生殖医療ネットワークについて. 第 25 回日本産婦人科乳腺医学会(横浜)2019. 3. 10
 - 5) 古井辰郎, 森重健一郎: がん・生殖医療に関する情報提供体制の現状と課題. 「ワークショップ 8 AYA 世代がんの諸問題とその対応」. 第 57 回日本癌治療学会学術集会(福岡)2019. 10. 24-26
 - 6) 中村則之, 古井辰郎, 岩間亨: 悪性神経膠腫と妊孕性について—男性 3 症例の経験—. 第 9 回日本がん・生殖医療学会学術集会(岐阜)2019. 2. 9-10
 - 7) 寺澤恵子, 古井辰郎, 山本志緒理, 菊野享子, 竹中基記, 山本晃央, 桑原美紀, 伊藤由夏, 森重健一郎: 卵子凍結保存を行った思春期の血液疾患患者の 2 例. 第 9 回日本がん・生殖医療学会学術集会(岐阜)2019. 2. 9-10
 - 8) 伊藤由夏, 古井辰郎, 寺澤恵子, 桑原美紀, 棚橋昌代, 二村学, 鋏柄増根, 坪井裕子, 森重健一郎: 乳がん患者の妊孕性温存における意思決定に影響する要因に関する一考察—当院での温存・非温存選択例の比較検討より—. 第 9 回日本がん・生殖医療学会学術集会(岐阜)2019. 2. 9-10
 - 9) 菊野享子, 相京晋輔, 早崎容, 古井辰郎, 森重健一郎: 当院の卵巣悪性腫瘍に対する妊孕性温存手術に関しての後方視的検討. 第 9 回日本がん・生殖医療学会学術集会(岐阜)2019. 2. 9-10
 - 10) 伊藤由夏, 古井辰郎, 寺澤恵子, 桑原美紀, 棚橋昌代, 森重健一郎: がん患者の妊孕性温存に関する意思決定支援—経

- 過の中で希望を変更した2症例からの検討。第9回日本がん・生殖医療学会学術集会(岐阜)2019.2.9-10
- 11) 桑原美紀、古井辰郎、寺澤恵子、三輪峰子、齊藤久美子、棚橋昌代：がん・生殖医療外来受診患者のニーズに合った意思決定を行うための看護支援について。第9回日本がん・生殖医療学会学術集会(岐阜)2019.2.9-10
- 12) 志賀友美、古井辰郎、村瀬紗姫、竹中基記、早崎容、森重健一郎：岐阜大学におけるがんサバイバーの周産期管理。第57回日本癌治療学会学術集会(福岡)2019.10.24-26
- 13) 坂野慎哉、加藤充純、今井寿、田中善宏、松橋延壽、高橋孝夫、山口和也、二村学、安江志保、遠渡沙緒理、小関道夫、小池大我、深尾敏幸、森重健一郎、吉田和弘：腫瘍全摘後に多発遠隔転移を認めた小児卵巣未熟奇形腫の一例。第57回日本癌治療学会学術集会(福岡)2019.10.24-26
- 14) 竹中基記、古井辰郎、寺澤恵子、森重健一郎：岐阜県におけるがん生殖医療ネットワークについて。第57回日本癌治療学会学術集会(福岡)2019.10.24-26
- 15) 志賀友美、村瀬紗姫、竹中基記、早崎容、古井辰郎、森重健一郎：子宮頸癌に対する広汎子宮頸部摘出術後の妊娠予後。第57回日本癌治療学会学術集会(福岡)2019.10.24-26
- 16) 村瀬紗姫、坊本佳優、竹中基記、早崎容、森重健一郎：岐阜大学産婦人科におけるBRCA遺伝子変異症例について。第57回日本癌治療学会学術集会(福岡)2019.10.24-26
- 17) 寺澤恵子、古井辰郎、菊野享子、山本志緒理、志賀友美、竹中基記、森重健一郎：乳がん患者の卵子・胚の凍結における黄体期ランダムスタートの有用性の検討。第57回日本癌治療学会学術集会(福岡)2019.10.24-26
- 18) 伊藤由夏、古井辰郎、寺澤恵子、山本晃央、森重健一郎：がん・生殖医療相談後に妊孕性温存を実施しなかった症例の実態調査。第64回日本生殖医学会学術講演会・総会(神戸)2019.11.7-8
- 【高井泰】
- 1) Yoshikawa N, Sugimoto K, Iwahata T, Takakura S, Okada H, Shigematsu K, Takai Y, Ishihara O, Saeki T: Current status and future prospects of Saitama Oncology Reproduction Network (SORNET). Oncofertility Conference 2019, Chicago, 11月11-13日, 2019
- 2) Takai Y, Shigematsu K, Itaya Y, Seki H: JAPAN ONCOFERTILITY REGISTRY: MONITORING AND ELIMINATING REGIONAL DISPARITIES AND FUTURE PROSPECTS IN FERTILITY PRESERVATION STRATEGIES IN JAPAN. Oncofertility Conference 2019, Chicago, 11月11-13日, 2019
- 3) Shigematsu K, Takai Y, Samejima K, Itaya Y, Seki H: JAPAN ONCOFERTILITY REGISTRY: MONITORING AND ELIMINATING REGIONAL DISPARITIES AND FUTURE PROSPECTS IN FERTILITY PRESERVATION STRATEGIES IN JAPAN. The 6th World Congress of the INTERNATIONAL SOCIETY FOR FERTILITY PRESERVATION, New York, 11月14-16日, 2019
- 4) Shigematsu K, Takai Y, Huang H, Samejima K, Ichinose S, Itaya Y, Matsunaga S, Saitou M, Aoyama K, Seki H: JAPAN ONCOFERTILITY REGISTRY - MONITORING AND ELIMINATING REGIONAL DISPARITIES IN FERTILITY PRESERVATION STRA

- TEGIES IN JAPAN. The 9th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction (ASPIRE 2019), Hong Kong, 5月2-5日, 2019
- 5) Huang H, Takai Y, Shigematsu K, Samejima K, Ichinose S, Itaya Y, Matsunaga S, Saitou M, Aoyama K, Seki H: FERTILITY PRESERVATION/ONCOFERTILITY NETWORK IN JAPAN. The 9th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction (ASPIRE 2019), Hong Kong, 5月2-5日, 2019
 - 6) 高井泰: 女性の生殖機能—がん治療が生殖機能に及ぼす影響—女性(薬物・放射線・手術療法). 第4回がん患者妊孕性支援スキルアップセミナー (e-learning), 東京, 2月24日, 2020
 - 7) 高井泰: ワークショップ「がん・生殖医療の量的・質的均てん化と公的助成・登録制度」がん・生殖医療の均てん化とは?. 第10回日本がん・生殖医療学会学術集会, さいたま, 2月16日, 2020
 - 8) 高井泰: がん患者に対する妊孕性温存—がん・生殖医療update. 埼玉県「小児・AYA世代のがん妊孕性温存治療」研修会, 日高, 1月28日, 2020
 - 9) 高井泰: がん患者に対する妊孕性温存—がん・生殖医療update. 埼玉県「小児・AYA世代のがん妊孕性温存治療」研修会, さいたま, 10月4日, 2019
 - 10) 高井泰: AUBの診断と女性ホルモン製剤の使い分け. 川越クリニカルカンファレンス, 川越, 11月1日, 2019
 - 11) 高井泰: AUBの診断と女性ホルモン製剤の使い分け. 第166回東部ブロック産婦人科講演会, 越谷, 9月4日, 2019
 - 12) 高井泰: パネルディスカッション2「最適ながん・生殖医療の実践をめざして」わが国のがん・生殖医療における経済的支援と患者登録制度の現状. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10月24日, 2019
 - 13) 高井泰: 若年がん患者さんが将来子どもを持つために—最新の情報をわかりやすく解説. リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越, 川越, 9月14日, 2019
 - 14) 高井泰: がん患者に対する妊孕性温存—がん・生殖医療update. 埼玉県「小児・AYA世代のがん妊孕性温存治療」研修会, 川越, 6月11日, 2019
 - 15) 高井泰: 妊孕性部会Year in Review—がん・生殖医療の現状と課題—. 第4回日本がんサポーターケア学会学術集会, 青森, 9月6日, 2019
 - 16) 高井泰: わが国におけるがん・生殖医療体制の現状と課題. 第37回日本受精着床学会総会・学術講演会, 東京, 8月1日, 2019
 - 17) 高井泰: シンポジウム14「Cancer Survivorへのヘルスケア」若年女性がん患者に対する妊孕性温存の現状と課題. 第19回日本抗加齢医学会総会, 横浜, 6月15日, 2019
 - 18) 高井泰: イブニングセミナー12 一般産婦人科医ができる、安全で効果的な不妊治療. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 4月13日, 2019
 - 19) 高井泰: 生涯研修プログラム2「AYA がん患者の生殖機能温存 Up-to-date」がん・生殖医療の総論・課題. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 4月12日, 2019
 - 20) 高井泰: 血液腫瘍患者の妊孕性温存のための生殖医療の実際. Novartis Oncofertility Forum in Tokyo, 東京, 11月29日, 2019
3. その他

- 1) 古井辰郎: 小児、思春期・若年成人 (CAYA) 世代がん患者および経験者の生殖機能障害に対する支援体制. 第 62 回兵庫県医師会学術セミナー(西脇)2019. 1. 13
 - 2) 古井辰郎: 若年がん患者の生殖機能に関する諸問題と地域連携による対策と課題. 愛知県がん生殖ネットワークキックオフミーティング(名古屋)2019. 7. 27
 - 3) 古井辰郎: 子宮頸がんとは. 若い女性を子宮頸がんから守るために(岐阜)2019. 8. 18
 - 4) 伊藤由夏: がんと共に生きながら子どもを持つことについての心理的支援. Green Loupe 2019 「がんになって子どもを持つこと」(東京)2019. 11. 3
 - 5) 伊藤由夏: 生殖に関する支援(各県の取り組み). 東海地区 AYA 世代がん患者・家族支援ネットワーク構築プログラム研修会「AYA 世代がん患者の問題点への取り組み」(名古屋)2019. 11. 23
 - 6) 伊藤由夏: 大学病院産婦人科における臨床心理士の活動-がん・生殖医療相談を中心に-. 5 月度岐阜産科婦人科研究会(岐阜)2019. 5. 25
 - 7) 古井辰郎: 若年女性のヘルスケアと少子化対策. 公開講演会 女性を子宮頸がんから守るために~新しい検診システムも踏まえて~(羽島郡)2019. 2. 2
 - 8) 伊藤由夏: 意見交換・ディスカッション: 岐阜県におけるがん・生殖医療の将来像. 岐阜がん生殖医療ネットワーク 2019 ミーティング(岐阜)2019. 7. 26
 - 9) 伊藤由夏: がん生殖医療における心理職の役割. 第 1 回三重がん患者の妊孕性を支える多職種研修会(三重)2019. 8. 4
 - 10) 古井辰郎: 若年 (AYA) 世代がん患者に対する妊孕性温存療法について【情報提供や、がん診療と生殖医療の連携が重要】. 日本医事新報 4943 : 56-57, 2019
 - 11) 古井辰郎: 子宮頸がん、その早期発見と予防の重要性-岐阜大学医学部附属病院 Report16-. 経済月報 66:22-23, 2019
 - 12) 古井辰郎: 第 71 回日本産科婦人科学会. 地域医療ネットワークが鍵握る-がん患者の妊孕性-, 意思決定に心理社会的支援を-AYA 世代がん患者-. Medical Tribune52(11) : 8, 2019
- H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案
なし
 3. その他
なし